

## 論文審査の結果の要旨

論文提出者氏名 與倉 豊

1980年代後半以降、グローバル化が進行する一方で、ローカルな地域経済や地域社会のあり様が注目を集めてきた。なかでも、同一産業が比較的狭い地域に集まる産業集積については、ポール・クルーグマンらの新しい空間経済学、マイケル・ポーターのクラスター論をはじめ、非常に多くの研究成果が蓄積されてきている。しかしながら、産業や企業のダイナミズムを既存の集積論のみから説明するには無理がある。企業間の取引関係に目を移せば、産業集積内部にとどまらず広域的なネットワークが形成され、また産業集積地域の硬直性や衰退を回避するためには、イノベーションによる刷新が求められてくる。本論文は、ネットワークとイノベーションの2つの観点に注目することで、産業集積論の一層の発展を意図したもので、とりわけ地理的観点を導入した社会ネットワーク分析により、産業集積とネットワーク、イノベーションの相互関係を検討した点に意義がある。

本論文は、序章、5つの章と終章から成る。まず序章では、産業集積の研究に関して、大きく異なる2つのアプローチ、すなわち従来からの経済地理学と新しい空間経済学の双方の主張と批判・反批判が紹介されている。これに対し本論文では、両アプローチの相互補完的な関係を構築しうることが主張され、以下の章でその具体的な検討がなされている。第1章では、ネットワークに関する諸研究が手際よく整理され、ネットワークの構成要素であるアクターの違いとネットワークが占める空間的次元との2つの軸からネットワークの形態が類型化されている。続く第2章では、イノベーションに関する内外の研究成果が整理され、産業が依存する知識体系の特性ごとに、イノベーションプロセスが大きく異なることが明らかになり、ローカル内の高度な技能を有した労働力の存在とともに、ローカルを越えた組織間の知識結合が、集積の持続的な発展を支えていることが示されている。

前半の理論的検討の各章と対応するように、後半の第2部では実証分析の章が配されている。第3章では、経済産業省の「特定産業集積地域」25地域における企業間取引関係のデータを用い、取引関係にもとづくネットワークの空間的特徴が社会ネットワーク分析により検討されている。分析の結果、取引ネットワーク構造は「スケールフリー・ネットワーク」の特徴を有していることが明らかになった。続く第4章では、経済産業省の「地域新生コンソーシアム研究開発事業」の採択プロジェクト991のデータを用い、同様の社会ネットワーク分析による検討がなされている。分析の結果、北海道、関東、近畿、中部では「集中型」のネットワーク構造を示すのに対し、その他の地方ブロック圏域では「分散型」のネットワーク構造を示すこと、「ものづくり型」と「サイエンス型」とで共同研究主体間の関係性の空間的拡がり異なることが明らかにされた。第5章では、実証分析の

まとめとして、「地域新生コンソーシアム研究開発事業」におけるイノベーションに関する決定要因の分析が行われている。その結果、産業集積がイノベーションに与える効果は、多様性の経済が主であり、地域特化の経済と市場の競争性の効果はみられないこと、ローカル内の密なネットワークとともにローカル外の組織との接触もイノベーションに正の影響を与えること、研究分野別にイノベーションの決定要因において異なる特徴がみられることが指摘された。

終章では、これまでの知見が整理されるとともに、今後の研究課題として、実証分析におけるイノベーション指標の拡張、動学的視点の充実等の諸点があげられている。

以上のように本論文は、産業集積の形成・発展モデルに関する理解を、ネットワークの側面とイノベーションの両側面から進展させたもので、空間的社会ネットワーク分析を用いた新しい経済地理学の研究成果として高く評価することができる。したがって、本審査委員会は博士（学術）の学位を授与するにふさわしいものと認定する。